

今、求められる道徳の授業づくり

1 はじめに

- 価値観が多様化したと言われますが……
- 私事化社会における「私」の膨張と「公」の弱体化
- 「開かれた個」と「閉じられた個」

「開かれた個」：自己との対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境と共に生きる(中教審答申、平成20年)

2 道徳教育、道徳の時間を進めるに当たって

- 「行い」と「心の中」。道徳性、道徳的実践力を育てるのが、道徳教育です。
- 「体験による道徳教育」と「考え合いによる道徳教育」
…… 豊かな体験や体験活動の大切さ。考え合う道徳の時間の大切さ

3 道徳の時間とは？

- 道徳の時間にすること →

道徳的価値の自覚を深める

自己の生き方についての考えを深める(小)
人間としての生き方についての自覚を深める(中)

- 「道徳的価値の自覚を深める」とは

I 道徳的価値について理解する。

こういうことって大切なことなのだな。こんな生き方があるのか。

こんな考え方ってとてもいいなあ。いろんな考え方があるんだな。

II 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる。

自分はどうかだろうか。自分にもこのようないいところがあるぞ。

自分はこのような考え方だ。こういう考え方って、自分にはない考え方だ。

III 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。

こんな考え方を自分もできるといいなあ。このような生き方をしてみたい。

自分のこのような考え方や生き方を大切にしていこう。

4 道徳の時間が充実し、道徳的価値の自覚が深まるには

- 子どもの実態に合ったねらいの設定がなされていること。
- 心を育てる豊かな体験を通して、心の中に貯め込みがあること。
- 心の扉が、少し開いていること。
- 共通の話題となる読み物資料の読解ができていること。
- 多様な考え方や感じ方と出会える発問があること。
- 子どもの発言の中に眠っているダイヤモンドの原石を見つけ、立ち止まれること。
- 様々な考え方と自分の考え方との違いに気づけること。

5 道徳の時間が充実し、道徳的価値の自覚を深めるために

- 授業のねらいを子どもの意識で考えよう。発達の段階も重要です。
- 登場人物の道徳的な変容や成長のときが、立ち止まりポイント！
その心の中を、みんなで考え合いましょう。
- 広がる発問、深まる発問、多様な返答や意識が期待できる発問をしよう。
- 道徳の読み物資料に書かれていることや行為を答えるだけの発問にならないようにしよう。行動を問うあとに控える本物の発問。切り返しの発問を大切に。
- 板書を工夫し、様々な感じ方や考え方を目で見える形で整理しよう。
- 教員の受容的な姿勢を大切に、プラス志向で進めよう。はひふへほの授業に。
- 机上を見る、前を見る、友達を見る。友達を見る授業にしよう。
- みんなで発見と納得の授業にしよう。

6 道徳の読み物資料とは

- 道徳の時間の充実から考える、読み物資料の要件とは。
- 何のために、読み物資料を使うのかを考えよう。
- 「インパクト」「コンパクト」「プロテクト」を大切にしよう。